

課題論文（EE）指導の成果と課題

EE コーディネーター 吉澤 将大・柏柳 航

1. はじめに

IB コアの一角を占める課題論文（EE）において生徒は、日本語で 8,000 字もしくは英語で 4,000 語の論文を執筆することを求められる。本校では 1 年次にアカデミックライティングと Inquiry-based Research (IR)、2 年次に IB 課題論文という講座を設置し、体系的な論文指導と生徒による主体的な研究の促進との両立を図っている。本稿では、IBO による EE の最終評価が明らかになった 3 年次生と、第 2 稿の執筆を終えた 2 年次生を対象に行ったアンケートの結果をもとに、「1 年次生の段階でどのような指導が必要とされているか」という観点から、EE 指導の成果と課題をまとめる。

2. 3 年次生の振り返りから

本年度の 3 年次生のうち、EE で特に優秀な成績を収めた（IBO から通知された成績が A であった）生徒 4 名を対象にアンケート調査を実施した。具体的には、EE の「ねらい」に含まれる①知的な独立研究に厳正かつ主体的に取り組む、②リサーチスキル、思考スキル、自己管理スキル、コミュニケーションスキルを養う、③研究と執筆のプロセスを通して何を学んだかを振り返る、という 3 つの観点を念頭に自らの取組みを振り返ってもらい、3 名から有効な回答を得た。この 3 名の振り返りに共通して見られたのは、「粘り強く取り組む姿勢」および「その裏付けとなる学習上の工夫」や「内発的な動機付け」の 3 点であった。

- 「情報整理は、ずっと私の苦手分野でもあり、新たな疑問や切り口が次々と思いついてしまうばかりに、上手くまとめられず、結局何を一番伝えたいのか、と混乱することがよくあった。読み手に伝わらないのではないかと心配で、あれもこれも取り入れて説明してしまう癖がなかなか直らなかった。そのため、字数制限もある中で、きちんと論じるのに必要な情報だけを選別してまとめる、整理するというプロセスが自分にとって一番の困難だった。しかし、EE に取り組む中で、頭に浮かんだ気づきは必ずメモを取るけれども、それらのメモはただきっかけやヒントのような役割だと割り切り整理する方法を身につけることができた。メモは、小さな気づきでも、後から必要になったり、考える糸口になり、自分の論に必要な要素をそこからピックアップしていくという考えをもつことによって、苦手を克服できた」
- 「EE の他と大きく違う点は約 1 年間という長い期間(猶予)があり、少しずつ進めていくところです。長いからこそ計画的に少しずつやれ、みたいなこと言われたりもしますが、逆に期間が長いからこそ試行錯誤できます。[...] EE であれば、とりあえず実験して、試して、じゃあ次ここの部分実験で深掘りしよう、とか、ここの分析しよう、とか、

ここ変えようとかいろいろできます」

- 「自分の好きな作品で興味のあるトピックを調べたことで主体的に取り組めたと思う。研究方法は漫画を隅々まで読んだり、アニメの音声を細部まで聞いたりと楽しかったので、苦痛に感じることなく、最後まで楽しんで執筆できた」

3. 2年次生の振り返りから

2年次生を対象としたアンケートでは、およそ過去2年間の取組みをいくつかのマイルストーンによって区切って振り返りを行ってもらった。具体的には、①前年度のアカデミックライティング・IR履修期間、②トピックとRQを決め「研究提案書」を作成した春、③文献購読や実験を行って論文執筆を進めた夏、そして④初稿および第二稿の執筆を行った秋から年末にかけての期間、という4つの節目で「もし今の自分からその時の自分に何かアドバイスが出来るとしたら、どのようなことを伝えますか」という問いに回答してもらった（対象者25名中、23名から有効回答を得た）。

前項で、EEの成績優秀者に共通して見られる特徴として「粘り強く取り組む姿勢およびその裏付けとなる学習上の工夫や内発的な動機付け」という要素を挙げたが、これは2年次生の振り返りにおいては主要な「反省点」のひとつとして認識されていた。

- 「執筆は期日直前にするのではなく、数ヶ月間に渡り長期的にゆっくりと執筆する」
- 「計画性は大事だがそれを実行しようとする事のほうがもっと大事だと思う」
- 「授業時間だけで考えたりせず、フリータイムでもじっくり考えたり調べたりする」
- 「私は2年の春の時点で考えがまとまっていなかったため、なんとなく興味があるかもな？というテーマを設定してしまった。その結果、調べている途中で興味がなくなって、全く研究が進まなくなってしまうことがあった」
- 「トピックやRQを設定するときには、本当にそれについて興味があるのか、継続して研究できるかを何度も自問自答した方がいい、と大きな声で言いたい」
- 「本当に自分が興味のある分野を選んだ方が絶対に良いと思う。変に賢そうなトピック、RQを設定すると、やる気も参考文献もなくて途中で折れる」

その他の主要な反省点としては、「Pre EEとEEとの接続を意識すること」や（上で論じた点と多少オーバーラップするが）「他の教科の学習と並行してEE執筆に継続的に取り組むために、作業を細分化して管理すること」を挙げた生徒が多かった。

- 「Pre EEで自分が興味のあることを研究するのもいいが、Pre EEの科目選択の時からEEをどの科目で書くかを考え、EEの書き方に直結するようにしたらEEをもっとスムーズに書けたかもしれないと感じた。一年生の初期はまだ科目も何を取るか決まっていない状態なので難しいが、早めに意識しておけば後々自分に感謝すると思う」

- 「Pre EE と EE のトピックや科目はある程度関連があるべき。最低言語は揃えたほうが書き方のスタイルをそのまま引用できて効率が良い。また、EE の研究が Pre EE の延長であると尚よい」
- 「私は当時、EE をしっかり理解していなくて社会問題について執筆を始めたが本番の EE ではどの教科にも当てはまらず発展することがなかったから自分が興味ある教科を決めてから RQ などを決めた方が良いと思う。もし科学系に興味があるのであればプレ EE で実験とかをしておくとお本の時に余裕を持って本番できると思う」
- 「その時やらなければいけないことを小さく分ける（フレーズ 1 個分析を毎日やる、など）ことで負担も減ったように感じるので、最後にまとめてやらずにとにかく早めに始める！！」
- 「他の科目の課題を把握した上で計画を立てるべき。EE は時間に余裕があったら書くよりも、EE の時間を 1 週間のうちに何時間と指定して行くと、後で焦ったりなどせずに執筆できると思う。」
- 「2 年次の秋以降は他の科目のテストだったり、課題だったりして EE に目を向ける時間が本当になかったの、全然 EE に触れる時間がなかった」

4. 成果と課題：いかに EE に備えるか

上で見た生徒の振り返りを念頭に「1 年次生の段階でどのような指導が必要とされているか」という問いを考えると、今後の改善点として、①Pre EE の段階から、EE と同様に科目を選択して執筆する、②スケジューリングの技術を主題的に扱う。以下のような施策の重要性が浮かび上がってくる。①は生徒に Pre EE と EE との接続を意識させるための方策であるとともに、出来るだけ早期に各自の興味関心の明確化を図ることで、粘り強い取組みの裏付けとなる内的動機付けの向上もねらいとしている。②は、学習上の技術的な工夫という側面から EE への粘り強い取組みをサポートするための方策であり、また 2 年次生が反省点すなわち課題として認識していた、他の科目の学習と並行して EE に継続的に取り組むために必要な作業の細分化と管理という点をケアするためのものである。

本校では現在、1 年次の Pre EE の段階から EE と同様に特定の科目を選択して EE を執筆させる、という指導は行えていない。またスケジューリング（計画立案とその進捗管理）の技術的な側面については、これまでクラス全体を対象とした指導の際に付随的に触れることはあっても、これを正面から扱うことはなかった。前者については、予算上・人員配置上の都合もあって、EE コーディネーターという筆者の裁量の範囲内だけで対処することは難しい。一方後者については、比較的容易に現行の指導に取り入れることができるように思われるため、次年度以降の EE 指導においてはこちらを優先的に検討していきたい。